

1. 都市緑化の推進

担当局課[建設局緑政課]

都市の緑は市民の都市生活と深い関わりをもっています。都市の緑がもつ効果は様々ですが、都市に豊かな緑が存在することで、うるおいと安らぎのある環境が生まれ、人々の暮らしを心地よくし、明るい活気のある都市空間が形成されます。

本市における都市緑化は「北九州市緑の基本計画」に基づいて進めています。この計画は、「パノラマの緑とまちの緑がいきづく環境首都・北九州」を計画のテーマとして、以下の4つの柱から成り立っています。

- ① 環境首都の機能を高める緑化と特色ある緑の保全・活用
- ② 健やかで生きがいのある暮らしに寄与する緑と公園づくり
- ③ 暮らしの安全に寄与する緑と公園づくり
- ④ 市民とともに作る緑のまちづくり

今後も、表に示す計画の目標値を指標として、都市緑化の推進を図っていきます。

また、行政は、企業が工場・事業所の敷地内の緑化、壁面緑化等の都市緑化に取り組むよう積極的な働きかけを行います。

◆都市緑化や都市公園に係わる目標値

項目	目標量 (H32年度)	現在の状況 (H26年度末)	備考
工場緑地及び工場等緑化協定	400ha	372.8ha	工場立地法による工場緑地を含む
都市公園面積	1,245ha	1,173.3ha	一人あたりの公園面積 12.25m ² /人
地域に役立つ公園づくり ワークショップ	55地区	26地区	(H20開始)
市民協働による緑化や 管理の箇所数	2,100箇所	2,019箇所	

2. ビオトープなどの自然共生型地域づくり

担当局課[環境局環境科学研究所、建設局緑政課]

本市では、都市化により失われつつある「市民と自然との関わり合い」を取り戻す場所として、周辺地域の生態系と調和し、多様性に富んだ生き物の生息空間(ビオトープ)としての水辺づくりを行っており、これまでに、志井うるおい池(小倉南区)、洞海ビオパーク(八幡西区)、響灘ビオトープ(若松区)等を整備してきました。

完成した水辺は、憩い安らげる身近な自然として、市民に親しまれていますが、さらに子供たちの環境学習や地域の環境保全活動の場として活用されるよう努めます。

福岡県立北九州高校魚部の取り組み

私たちの通う北九州高校には、中庭に学校ビオトープがあります。このビオトープでは、三代目の魚部員が「学校の中に自然に近い状態で生きものを観察できる場所はないか」また、「何らかの形で生きものを守ることができるのではないかと考え、学校の中庭に小さな水辺を作ったのがきっかけでした。

これは、身近な自然を見直そうという魚部活動の延長線上にあるものです。

学校ビオトープでは、絶滅危惧種の保護活動も行っています。代表的な生き物としては、ニッポンバラタナゴ、デンジソウ、ヒナモロコを保護しています。

ニッポンバラタナゴ… 本種は河川や水路に生息し、ドブガイやマツカサガイなどの二枚貝に産卵します。近年、水質の悪化・河川や水路の改修工事・外来種の侵入などによって減少しています。

デンジソウ…………… 水生シダの一種で、水田や沼の浅瀬に生息しています。除草剤撒布や宅地化の影響で減少し、現在では県内でニカ所にしか確認されていません。

ヒナモロコ…………… 小川や水路に生息しています。国内での分布はもともと狭く、九州では一カ所でしか生息が確認されていません。生息地の圃場整備が減少の理由と考えられています。

この三種類の生きものは絶滅危惧種に指定されており、どの種も開発工事で生息地を失った北九州市内の水生生物であるため、学校ビオトープで保護しています。小さなビオトープとはいえ、ある程度外部と遮断された環境なので保護増殖に適しているといえます。ニッポンバラタナゴは条件整備が難しく自然繁殖には至りませんでした。デンジソウとヒナモロコは現在も順調に繁殖・増殖し続けています。



ニッポンバラタナゴ



デンジソウ



ヒナモロコ

ふれあいの場の整備

担当局課[建設局緑政課]

これまで、市では、自然とのふれあい、特に生き物とのふれあいの場を確保するため、グリーンパーク、皿倉・河内地域、平尾台、山田緑地等で整備を進めてきました。

<グリーンパーク(響灘緑地)(若松区)>

若松区にあるグリーンパークは、複雑な水際線がリアス式海岸を思わせる広大な頓田貯水池を中心に山林、原野、海浜等変化に富んだ自然景観がひろがる、「水・緑・そして動物たちとのふれあい」を基本テーマにした市内最大の公園(開設面積約196ヘクタール)です。

園内のひびき動物ワールドには国内では珍しいウオンバットや、日本ではここでしか見られないロックワラビーがいます。

また、緑化に関する中核施設である「都市緑化センター」、西側エリアに階段状に広がる「バラ園」(320種約2500株)、その他に「サイクリングロード」などもあります。

<皿倉・河内地域の整備(八幡東区)>

皿倉地域は、市街地に近接する自然に恵まれた緑豊かな地域であり、身近なレクリエーションの場として、多くの市民に利用されています。

河内地区では、湧出した温泉と豊かな自然を生かし、多世代が楽しく憩える余暇・レクリエーションの拠点を整備しました。

<平尾台自然の郷(小倉南区)>

平尾台では、天然記念物指定地域(保存ゾーン)と石灰岩採掘地域(産業ゾーン)との間に緩衝地帯(バッファゾーン)を設け、その一部に平尾台の自然を生かした集客施設や地域振興のための施設「平尾台自然の郷」を整備しました。基本テーマを「自然と人とのふれあい」、「地域活動とのふれあい」、「地域産業とのふれあい」、「平尾台特有の景観との調和」とし、自然保護の徹底と産業活動の調和を図っています。

ふれあいの場の整備(つづき)

<山田緑地の整備・30世紀の森づくり(小倉北区)>

山田緑地は、かつて山田弾薬庫として使用され、約半世紀にわたり一般の人々の手が加えられていない自然の残る森でした。その一部を広く市民に開放されることが決まり、その時点で生き物調査が実施され、北部九州で生息する生き物がワンセット生息していることが確認されました。そして、「30世紀の森づくり」を基本理念として、貴重な自然を守り育てていく公園づくりを目指して整備し、開園後20年が経過しました。

公園の特色としては、森の自然に触れ、体験しながら観察することができる利用区域と環境保護を優先する保護・保全区域の3つに区域分けをして、生き物や森の観察などの学習研究活動や自然環境をテーマとした市民交流活動など、多種多様な取り組みを実施しています。また、開園後20年を経過した現状を把握するため、市民ボランティアと専門家による生き物調査を行うなど、新たな取り組みも進めています。

30世紀(千年)の森を見守る調査では、自然林への移行の状況を把握するための調査エリア(実験場)を設定し、指標種となるタブノキやシノキ類の出現状況などの調査を行っています。また、哺乳類の定点カメラ調査では、いきいきとしたタヌキやノウサギ、テンなどの姿をとらえました。その他、鳥類や昆虫類などを含めて生き物調査を進め、山田緑地が都心に近接して優れた自然を有していることや、生態系ネットワークの中心となっていることが分かりました。

<到津の森公園(小倉北区)>

「市民と自然を結ぶ窓口」を基本理念とし、自然や動物とのふれあいを通して学習する自然環境教育施設です。

「自然・動物・人にやさしい」をコンセプトに、周辺の豊かな自然を生かしながら、動物たちの生息地に合わせた展示空間づくりや、観察園路の工夫で、より自然な動物たちの生態を観察できます。

世界の動物ゾーン、郷土の森林、ふれあい動物園で約100種類の動物たちに会うことができるほか、園地ゾーンには芝生広場や遊具もあり一日のんびりと過ごすことができます。

また、「里のいきもの館」では、国内に生息する小動物や昆虫を展示し、周辺には森を観察できる散策路も設けています。

<白野江植物公園(門司区)>

周防灘を望む小高い丘の上にあるこの公園は、北九州市では唯一の市立花木園です。園内の桜広場やボタン園、花畑などで四季折々の花が咲き乱れ、訪れる人を楽しませます。また、植物観賞だけでなく、緑豊かな自然の中での森林浴やピクニック、写真撮影やスケッチなどそれぞれの楽しみ方を見つけられる場所です。

NPO法人グリーンワークの取り組み

NPO法人グリーンワークは平成16年に設立しました。

「みどり豊かなまちづくりの推進」をミッションとして、技術士やグリーンアドバイザー、ビオトープ管理士などが集まり、環境、福祉、まちづくりなど様々な活動を行なっています。

平成26年4月からは、北九州市立山田緑地と北九州市ほたる館の指定管理を「九州造園・グリーンワーク共同事業体」として北九州市の委託で行なっています。

1. 山田緑地生き物調査隊

山田緑地内の生き物の調査を定期的に子ども達と実施しています。

山田緑地内の昆虫や鳥、水生生物、樹木などの生き物を調査し、生き物の生態や豊かな森のしくみなどを市民に情報発信しています。

2. 山田緑地みつばちプロジェクト

ニホンミツバチは環境指標生物と言われる在来の昆虫です。山田緑地にも生息しているニホンミツバチを専門家の指導の下、緑地内で飼育しています。

プロジェクトでは、ニホンミツバチの生態や森の中での役割、人とのかかわり、蜜源植物などの学習や採蜜や巣箱づくりなどの養蜂技術を学んでいます。



生き物調査隊の活動



みつばちプロジェクトの活動

3. 清流の復活と豊かな水辺環境の創造

担当局課[建設局水環境課]

これまでの河川事業は、治水対策を重視して行われていました。その進展は、安全性に大きな効果を生みましたが、その反面で生物が棲みやすい環境、地域の景観への配慮が不足し、市民の日常生活から河川を遠ざけていたことも事実です。

そこで、河川は都市内に残された貴重な自然空間であることから、市民の潤いと憩いの場として活用し、生物の生息・生育空間を保全することによって、親しみのある河川を取り戻す環境整備を行っています。

ア) 紫川マイタウン・マイリバー整備事業

(平成2年度～平成26年度 但し河川事業は平成40年度完目標)

紫川下流部の河川改修事業により、治水対策を推進すると同時に、周辺の市街地や道路、公園等の整備を一体的に実施することにより水辺を活かした安全で快適な街づくりを進めています。

イ) 紫川ふるさとの川整備事業(平成9年度～)

小倉南区から小倉北区にかけて市内を南北に流れる代表的な二級河川である紫川の河川改修に併せて、紫川の歴史や小嵐山周辺の自然を生かしながら、豊かな自然生態系を保全し、市民に親しめる河川整備を進めています。

ウ) その他の親水整備

金山川水辺の里(八幡西区)や黒ヶ畑池(八幡西区)、名前谷池(八幡西区)などでは、治水一辺倒の味気ない河川や調節池ではなく、これらが本来持っていた人々が集い、心豊かなゆとりある環境を取り戻すために、様々な整備と保全に努めています。



紫川桜橋付近

これまで実施した河川整備事業

担当局課[建設局水環境課]

撥川河川再生事業(撥川ルネッサンス計画)(平成9年度～平成17年度)

撥川は、昭和28年大水害を契機として、治水対策のため、コンクリートの三面張りで整備され、排水路と化していました。その川を「もう一度魚が棲み、岸辺に草が生い茂り、水辺に近づける川に蘇らせたい」と撥川再生計画を策定し、動植物の生息・生育環境に配慮するとともに、親水性の高い河川整備を行いました。

整備前の写真



整備後の写真



板櫃川水辺の楽校(平成9年度～平成19年度)

板櫃川では、八幡東区高見地区の850mの区間で、「水辺の楽校プロジェクト」を進めています。

水辺の楽校プロジェクトは、河川の持つ様々な機能を最大限に活かし、子供たちの豊かな心・自立心・自然を大切にすることを目的としています。

計画策定にあたっては、地域住民や小学校、学識経験者などが参加した意見交換会を開催し、「街の中での冒険」をテーマに、整備を進め、自然の状態を極力保全、あるいは瀬や淵、せせらぎ等の自然環境を創出し、子供たちが自然と出会える安全な水辺をつくりました。

小嶺水辺の教室の取り組み

1 小嶺めだかまつり 開催

例年9月の第一日曜日に開催しています。第1回は、平成元年9月9日に開催し、以来、平成25年の台風による中止を除いて、平成26年まで13回目を実施しました。自然の中で親子が触れ合う行事として毎回400名以上が参加する一大行事となっています。池の一つを解放したメダカすくいや、ザリガニ釣りは、泥にまみれて大人気です。この活動を通じて地域固有のメダカの保護や、環境の重要性をPRしています。

2 小学校のメダカの授業支援

小学校5年生で行われるメダカの授業を支援しています。教科書では、ヒメメダカが紹介されていますが、近隣の二つの小学校では、授業に使うメダカの採取をここで行っています。出来れば、野生のクロメダカでやるべきと思いますが、地元のクロメダカを採取するのが難しいためと考えています。

3 日本一小さな小嶺ほたるまつり 開催

地元の小さな河川「中島川」大部分がコンクリート三面張りとなっており、ゲンジボタルの棲める環境は、幅3m弱120mの区間が対象になります。毎年、ピーク時には150～300個体が飛翔し、市内でも第一級のビューポイントです。

地元の自慢の環境を守るのは地元の務めです。

これら活動の他にも、孟宗竹の間伐と竹炭づくりにも取り組んでいます。



小嶺ほたるまつりの様子



メダカすくいとザリガニ釣りの風景



メダカ採取と泥遊び

4. 「新・海辺のマスタープラン」に基づく水際線の整備

担当局課[港湾空港局開発課]

港湾空港局では、これまでに「市民に親しまれる水際線づくりマスタープラン(平成6年策定)」、「海辺のマスタープラン2010(平成14年策定)」を策定し、水際線の市民利用の促進に取り組んできました。

平成23年には、今後も本市の海辺が多くの人に利用され、親しまれるように、目標とする海辺の将来像や取り組み方針を定めた「新・海辺のマスタープラン」を策定しました。「新・海辺のマスタープラン」を着実に推進していくため、有識者やNPO、企業等の参加により『北九州市海辺利用促進会議』を設立し、利用者の視点に立った海辺づくりに取り組んでいます。

北九州市の海辺づくりのコンセプト ～海辺を舞台に 憩い・学び・遊ぶ!～ 魅力ある海辺をめざして

場の提供

～訪れることのできる海辺を増やす～

- ①水際線整備の推進
- ②交通利便性の確保
- ③市民参加による海辺づくり

機会の提供

～訪れるきっかけをつくる～

- ①海辺を訪れ遊ぶきっかけづくり
- ②海や港を学ぶしくみづくり
- ③海辺の資源を活用したにぎわいづくり

将来像実現に向けた目標

- 利用できる海辺を増やす
- 親しまれる度合いを高める

環境を守る

～環境と共生する海辺をめざす～

- ①環境に配慮した海辺の整備
- ②海辺の環境学習の推進
- ③海岸環境の維持・保全

情報の提供

～もっと海を知ってもらおう～

- ①海辺の魅力の情報発信
- ②市民活動における情報の共有化
- ③安全な利用のための情報提供

策定年月

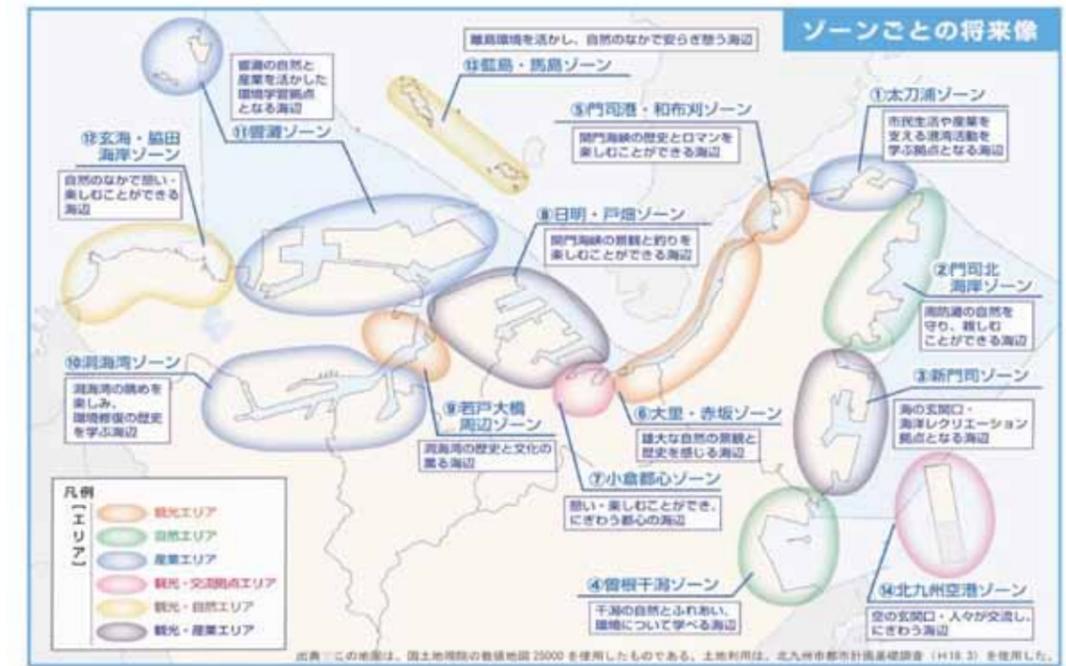
平成23年5月

計画期間

平成23年度～平成32年度(2020年度)

計画の対象

箇所：市内全域の水際線と近接する海域および陸域の一带
対象者：市民だけでなく、広く国内外からの来訪者も含める



ゾーンごとの将来像

5. 地域の自然環境等に配慮した道路事業の推進

担当局課[建設局道路計画課]

平成20年12月、国土交通省により、我が国の今後の道路整備・管理を計画的・効率的に進める基本方針を明確にした「新たな中期計画」がとりまとめられ、平成21年7月には地域の実情を踏まえた計画とするため地方版の計画である「道路の中期計画(九州版)」が九州幹線道路協議会により策定されました。

九州地方で今後取り組む具体的な施策の一つでは、「美しい環境先進圏の形成に向けた社会基盤づくり」として、九州をはぐくむ恵まれた自然環境や美しい景観、これまでに形成された社会資本を活用し、良好な形で次世代に継承されるために、道路の整備や管理においても地域の自然や景観に配慮するとともに、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向け沿道環境の改善や地球温暖化等にも配慮することとしています。

本市の道路整備においては、今後の「みちづくりの方向性」を示すとともに、「主な施策や事業」「道路整備の目標とその効果」などを示し、道路整備の指針となる「北九州市道路整備中長期計画」(計画期間:平成22年度～平成31年度)を平成22年2月に策定しました。(平成27年11月改訂)

この計画は、

【ビジョン1】都市の発展を支えるみちづくり

【ビジョン2】安全・安心な暮らしを支えるみちづくり

【ビジョン3】美しき環境先進都市を支えるみちづくり

の3つのビジョンで構成されており、特に【ビジョン3】では、以下の様な道路整備の方向性が示されています。

1. 環境に配慮した道路施策の推進で、低炭素社会づくりに貢献します。
2. 美しき道路景観の創出と沿道環境に配慮したみちづくりを進めます。
3. 多様な地域主体との協働により、おもてなしとにぎわいのあるみちづくりを推進します。

具体的には、

・道路照明のLED化による二酸化炭素排出量の削減

・環境対策型舗装(遮熱性舗装、保水性舗装)によるヒートアイランド現象の緩和

などに取り組むこととしており、今後も引き続き、自然環境等に配慮した道路事業を推進していくこととしています。

生物に配慮した道路事業 ～恒見朽網線での取り組み～

担当局課[建設局道路計画課]

(1) 鳥類の車両への衝突回避、多様な生物の生息環境の形成

【工法の特徴】高木の緑地帯により緩衝機能を確保、緩衝緑地帯とは別に樹林帯を整備

(2) カヤネズミや、チュウヒ・オオヨシキリ等の鳥類の生息環境の確保

【工法の特徴】本道路事業により消失するヨシ原を代償
(潮遊溝内にヨシ原を創出)



(3) タヌキ等の哺乳類、メダカ等の魚類の移動路の確保

【工法の特徴】ボックスカルバートを設置(哺乳類と魚類の分離型、採光の工夫)

